

保護者説明用

**麻しん・風しん混合ワクチン（MR）を受けるにあたっての説明
（1期：1歳～2歳未満 2期：小学校就学前1年間の幼児）****1 麻しん・風しんの症状について****○ 麻しん**

麻しん（はしか）は、麻しんウイルスの空気感染によって起こります。感染力が強く、飛沫・接触だけではなく空気感染もあり、予防接種を受けないでいると、多くの人がかかる病気です。高熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一度おさまりかけたと思うと、また39～40℃の高熱と発疹がでます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。患者100人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約1～6人に合併します。脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。

また、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は、約10万例に1～2例発生します。はしかは、医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1,000人に1人が死亡するとともに重症な病気です。

○ 風しん

風しんは、風しんウイルスの飛沫感染によって起こります。潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。そのほか、眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。合併症として関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。血小板減少性紫斑病は患者約3,000人に1人、脳炎は患者6,000人に1人くらいです。大人になってからかかると重症になります。

妊婦が妊娠20週頃までに風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った児が生まれる可能性が非常に高くなります。

2 予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けたお子様のうち、1回の接種で95%以上が免疫を獲得すると言われていますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたつて免疫が下がってくることを防ぐ目的で、2回目の接種が行われるようになりました。

麻しん風しん混合ワクチンの主な副反応

主な副反応は、発熱と発疹です。1期では、観察期間中（0～28日）に初発した発熱は約16.6%にみられ、そのうち最高体温が38.5℃以上あったものは、約10.6%にみられます。2期では、観察期間中（0～28日）に初発した発熱は約6.0%にみられ、そのうち最高体温が38.5℃以上あったものは、約3.4%にみられます。発疹は、1期で約4.3%、2期で約1.0%にみられます。

裏面もお読みください

他の副反応として、注射部位の発赤・腫脹（はれ）、硬結（しこり）などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応データからアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

3 予防接種による健康被害救済制度について

○定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になる、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

○健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

○ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。

（予防接種と子どもの健康より）

問い合わせ先

飯塚市 感染症対策室 （電話）0948-22-5500（内線 2165 2166）

（FAX）0948-25-8994

*住民票のある市町村にお問い合わせください。